

関西学院大学 研究成果報告

年 月 日

関西学院 院長殿

所属： 教育学部
職名： 教授
氏名： 橋本真紀

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 関西学院留学 長期（滞在国： ベルギー ） <input type="checkbox"/> 関西学院留学 短期（滞在国： ） <input type="checkbox"/> 宣教師研究期間
研究課題	文化・社会的価値に応じた家庭支援のあり方とその専門的機能について
研究実施場所	Ghent University Department of Social Work and Social Pedagogy,
研究期間	2017年 3月 29日 ～ 2018年 3月 30日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

「文化・社会的価値に応じた家庭支援のあり方とその専門的機能」をテーマとし、2つの調査研究を行った。**第一次調査**では、「ベルギーフレミッシュ地域の子育て家庭支援の機能と実態把握」を目的として、5か所の“Huizen van het Kind”（子どもの家：子ども家庭支援センターMeeting Place含む）と、3か所のMeeting Placeでヒアリング調査を行った。**第二次調査**では、その8か所から1か所を選定し、「多様な文化的背景を有する親の交流を促進するMeeting Place の実践者の役割」について継続的にヒアリング調査と観察調査を行った。

第一次調査では、フレミッシュ地域の家族支援では、多様な習慣や文化的、社会的価値観をどのように考慮して、子どもを持つ家族をサポートするのかを理解するため、2014年度より開始されている“Huizen van het Kind”（Meeting Place含む）8か所を対象としたヒアリング調査を行った。主な調査項目は、【1】施設の概要：「支援における理念」「スタッフ数と資格」「運営補助費」「主たる支援対象者」「活動内容」「利用費の有無と金額」、【2】利用者の状況：「利用者数」「利用者の利用目的」「主な利用者の特徴」、【3】スタッフの働き：「スタッフの役割」「多様な利用者が利用しやすくなる工夫」「守秘義務と情報共有」「研修システムと内容」「近隣との関係」「ユニバーサリズムの捉え方」「課題」である。

結果、8か所に共通していたことは、支援対象となる子育て家庭の捉え方であった。いずれの施設も子育て家庭を「家族は、問題を見出されて問題解決のサポートを受けるよりも、積極的なアプローチとして他の親子と出会うことと、経験を共有するための場を必要としている」と捉えていた。一方、8か所の相違点としては、大別して、「文化・社会的価値に応じた家庭支援」の実現に向けて、多様な専門機関、近隣住民等と連携して取り組む5カ所（全て“Huizen van het Kind”）と、専門機関や近隣住民等との連携を行わない3カ所（全て独立の“Meeting Place”）という二つの異なる運営方針が認められたことがあげられる。後者では、Meeting Placeに“Secret Agenda”（子育てに対する社会の期待や方針、評価）を持ち込まない」という発言も認められた。また“Huizen van het Kind”やMeeting Placeが、全ての子育て家庭を対象とするという意味においてユニバーサリズムの理念に基づくという理解は、8カ所全てで共通していたが、ユニバーサリズムをどのように捉えるかという観点は異なっていた。

第二次調査では、第一次調査の対象となった8カ所の“Huizen van het Kind”、Meeting Placeから、1カ所のMeeting Placeを選び週1回計4日間の観察調査と、4名の職員を対象としたヒアリング調査（2回）を行った。調査結果は、日本のMeeting Placeと比較検討を行うため、日本のMeeting Place（地域子育て支援拠点事業）の運営条件と合う施設を選定した。観察調査とヒアリング調査の結果は、以下3つの分析を行った。（1）ヒアリング調査の結果を“Thematic Analysis”を用い、主として支援の理念と働きを析出した。（2）“Thematic Analysis Hybrid approach”を用い（1）の結果と、日本の地域子育て支援拠点事業ガイドラインの内容について比較検討を行った。（3）ヒアリング調査の結果と観察調査の結果の比較検討を行った。結果（1）40コードの職員の働きが析出された。結果（2）ベルギーと日本のMeeting Placeにおける職員の働きの比較検討においては、以下が得られた。共通点としては、①従事者は、子育て家庭から2つの対照的な役割を求められていること。1つは専門家としての役割、もう1つは親との対等な関係を確立し保つという役割である。②従事者は、親から話を聴きともに考える役割を求められ、エキスパートとして存在するのではないこと、③親との相互作用において指導的になる傾向に自覚的であることも共通して求められていた。相違点としては、①親との関係構築においてベルギーでは、「Respect」が核となっており、日本では「共感」を手がかりとしていた。結果（3）では、職員が多様な文化差を有する子育て家庭の交流をどのように支援しているか、物理的環境や非言語的な支援に焦点をあてて分析を行った。結果、①従事者は、すべての文化や慣習と平等に関わることを意識しながら、空間、人の言動にある「違い」を認識し、そのバランスを見出し、バランスを維持することに取り組んでいた。②さらに物理的環境構成においては、文化的な感受性に基づき、民族的な品物等を単に装飾として扱うのではなく、空間の中での役割を見出し機能させていた。①②などにより、空間と調和のとれた雰囲気を作り出す方法を探り、つねに物理的環境を「育てていくこと」を心がけていた。（[kekkanituiteha,2018nen8gatumatu\(European Early Childhood Education Research Association28th in Hungary\)](#)）で発表を予定しているため本報告では記載していない。

本研究の課題は、Meeting Placeの親子と従事者の言語的な相互作用に焦点を当て、「文化・社会的価値に応じた家庭支援」のあり方を検討したい。さらに親子との関係構築においてベルギーは「Respect」、日本は「共感」を核としていたその違いへの影響要因も明らかにしたい。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間は大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に

報告用紙①

支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。